

水稲・大豆の生育と管理

令和元年7月号

宇佐市農政課

北部振興局集落営農・農地活用第一班

～水稲～



◎ 雑草対策

雑草発生圃場では、薬剤の使用時期（収穫前日数等）や雑草の葉齢を考慮して早めに処理しましょう。初期の除草剤で雑草を抑えられなかった場合、中後期の除草剤を使用してください。

薬剤ごとに適用葉齢、水管理、使用時期が異なるので、ラベル等をよく読んで使用しましょう。

対象雑草	除草剤名	使用量(10a)	使用時期
広葉雑草のみ	バサグラン粒剤（※1）	3～4kg	移植後 15～40日 （収穫 60日前まで）
	バサグラン液剤（※1）	500～700ml	移植後 15～45日 （収穫 50日前まで）
イネ科雑草のみ	クリンチャー 1キロ粒剤	1kg	移植後7日～ノビエ4葉期まで （収穫 30日前まで）
		1.5kg	移植後 25日～ノビエ5葉期まで （収穫 30日前まで）
	クリンチャー EW	100ml	移植後 20日～ノビエ6葉期まで （収穫 30日前まで）
広葉及びイネ科雑草	ハイカット 1キロ粒剤	1 kg	移植後 15日～ノビエ3.5葉期 （収穫 60日前まで）
	クリンチャーバスME液剤（※2）	1000ml	移植後 15日～ノビエ5葉期 （収穫 50日前まで）

※1 バサグランは落水散布又はごく浅く湛水して散布。

※2 クリンチャーバスME液剤は落水後に散布、散布後3日間は入水しない。

◎ 間断灌水

活着してから中干しまでは間断灌水が基本で、常時湛水していると有毒な物質を含んだガスが湧き、根痛みします。

田に水をため、自然に落水してから1～2日おいて入水することを繰り返します。地中深く張る根へ水と酸素を十分に供給することで、根痛みを防ぎ元気な稲に育てましょう。

～大豆～



◎ 種子消毒

種子消毒は種子伝染性の病害予防等に加えて、生育初期の種子腐敗を抑えて発芽率の確保や発芽を揃える効果があるので、必ず行いましょう！

大豆の種子消毒剤

使用時期	薬剤名	使用量	対象
播種前	クルーザーMAXX	乾燥種子 1kg 当たり 8ml	紫斑病、ネキリムシ類、フタスジヒメハムシ、鳥害、苗立枯病
	キヒゲンR-2フロアブル	乾燥種子 1kg 当たり 20ml	紫斑病、鳥害

◎ 適期播種

大豆の播種適期は7月1日～7月15日です！

播種時期の差が大豆の収穫量に大きな影響を及ぼします。適期播種を行うことで適切な生育を確保し収穫量を増やしましょう。早播きは過繁茂や倒伏、病害虫の増大につながり、遅播きは生育不足につながります。

◎ 播種の深度と密度

- 播種深度は出芽率や出芽日数に大きな影響を与えます。
- 出芽率が低下すると欠株が多くなり減収するだけでなく、欠株部から雑草が発生しやすくなります。
- 播種密度は播種時期によって変えましょう。

播種時期と播種密度の目安

播種時期	播種密度 条間 × 株間	播種量
7月上旬	75×20cm	4kg/10a
7月下旬	75×10cm	8kg/10a

大豆の播種深度

播種後の天候を予測して播種の深さを調節しましょう!!

2cm

3cm

5cm

← 播種直後に大雨が降りそうなら2cm

← 基本は3cm

← 乾燥が続くそうなら4～5cm
→ 鎮圧をしっかりと!!

◎ 雑草防除

大豆は初期生育時の雑草防除が重要です。雑草が蔓延してしまうと、競合や病虫害の発生等で、収量が大きく減少します。除草剤の使用時期を確認し、必ず散布を行いましょう。

薬剤名	使用時期	使用量(10a当たり)	希釈 (L/ 10a)
ラクサー乳剤	播種後出芽前 (雑草発生前)	400～600 ml (ツユクサ 400～800 ml)	100
クリアターン乳剤	播種直後 (雑草発生前)	500～800 ml	70～100
クリアターン細粒剤F	播種直後 (雑草発生前)	4～5 kg	—